令和５年度

事　業　報　告　書

令和５年　４月　１日から
令和６年　３月３１日まで

公益財団法人
木原記念横浜生命科学振興財団

公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

目次

事業概況及び課題等 ･･･ 1

Ⅰ　生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業 ･････････････････････････ 2
1　学術奨励事業
(1) 木原記念財団学術賞
2　知識普及啓発事業
(1) 木原記念こども科学賞
3　情報発信

Ⅱ　生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業 ･････････････････････ 6
1　共同研究開発事業等
（1）共同研究開発の創出・推進
（2）Go-tech 事業
（3）大学・研究機関の研究・産学連携支援
2　研究開発等助成事業
（1）LIP.横浜トライアル助成事業

Ⅲ　生命科学の応用による産業活性化の支援事業 ･････････････････････････････ 9
1　事業化支援
（1）横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）の推進
（2）横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）デジタルヘルスケア事業の推進
（3）個別支援等
2　ネットワーク促進、活用事業（マッチング）
（1）バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営
3　出展支援・広報
（1）BioJapan 2023　出展支援
4　クラスター連携事業
（1）クラスター連携

Ⅳ　生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営
…… １６
１　横浜バイオ産業センター（YBIC）事業

Ⅴ　理事会・評議員会・監査…… １７
１　理事会
２　評議員会
３　監査

Ⅵ　事務局…… １８

事業概況及び課題等

令和５年度においては、横浜市との協約等に基づき、「健康・医療」分野を中心に定款に定める４つの事業に取り組みました。

「学術振興及び知識普及啓発」では、第 32 回木原記念財団学術賞の選考や第 31 回受賞者の記念講演会を開催しました。また、第 31 回木原記念こども科学賞では表彰式及び令和元年度以来 4 年ぶりとなる「小さい実験」を実施し、神奈川県内の小・中学生を対象に専門家による味覚体験に関する講演会を開催しました。

「共同研究開発等の企画及び推進」では、神奈川県内の中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の共同研究開発の創出・推進を支援するとともに、横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）のトライアル助成事業においては、横浜市内の企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向けた支援を行いました。

「産業活性化の支援」では、LIP.横浜の事業において、ヘルスケアに関連するビジネスの事業化への支援や中小企業･スタートアップ等への支援などを横浜市と共に行いました。

また、バイオベンチャーアライアンス（BVA）などのネットワークを活かし、バイオビジネスのマッチングセミナー等を企画開催するとともに、バイオジャパンへの出展支援などを行いました。

「産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営」では、バイオ関連企業や研究機関を支援する賃貸型研究施設である横浜バイオ産業センター(YBIC)について、経年劣化に対応して電話設備を更新するなど、良好な研究環境を提供しました。

理事会、評議員会、監査や事務局の運営においては、事業活動の効率性を向上させるため、オンラインの活用や、テレワーク等を推進しながら、各種業務に取り組みました。

脱炭素や GX といった社会課題に対し、バイオを活用したイノベーションが社会的に求められており、そのような状況を踏まえ、新たな中期経営計画を策定しました。

今後も生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与できるよう、中・長期的な視点に立って事業の改善や財政基盤の安定化に取り組み、持続可能な財団経営を目指してまいります。

Ⅰ　生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

（事業費支出　5 百万円）

1　学術奨励事業

（1）木原記念財団学術賞【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

ア　第32回木原記念財団学術賞の選考

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている研究者（満 50 歳以下）を表彰するため、「第 32 回木原記念財団学術賞」を実施し、受賞者を決定しました。

学術賞の選考にあたっては、推薦募集の受付けや第 1 回選考委員会のオンラインでの開催、選考資料をデータ配信するなど選考過程の効率化を図りました。

＜受 賞 者＞　トーマス・マックヒュー 氏（国立研究開発法人理化学研究所 脳神経科学研究センター　神経回路・行動生理学研究チーム　チームリーダー）
＜受賞研究＞　「Elucidating the circuits and physiology of hippocampal memory（海馬記憶の神経回路とその生理の解明）」

◇募集期間：令和５年６月１日（木）～９月 30 日（土）
◇推薦依頼先：228 か所（内訳：学会 55、研究所 22、大学 123、過去授賞者 28 名）
◇推薦数：20 件

イ　第31回木原記念財団学術賞贈呈式の実施

令和４年度に実施した「第 31 回木原記念財団学術賞」の贈呈式を、横浜市立大学木原生物学研究所において開催しました。贈呈式の後、受賞者である宮城島氏と木原記念室を見学し木原均博士のご研究内容やお人柄などをご紹介しました。

◇開催日：令和５年５月 11 日（木）
◇会　場：横浜市立大学木原生物学研究所

ウ　第31回木原記念財団学術賞記念講演会の実施及び30周年記念誌の配布

令和４年度の受賞記念として、オンライン形式にて講演会を開催しました。受賞者及び木原均博士ゆかりの国立遺伝学研究所の所長である花岡文雄博士に、「国立遺伝学研究所の歩み」と題したご講演をいただきました。また、完成した 30 周年記念誌をホームページで公開すると共に、各所に配布しました。

◇開催日：令和５年８月 30 日（水）14:00～16:15
◇会　場：オンライン
◇プログラム：
・静岡県立大学薬学部薬学科　特任教授　長田　裕之氏
・第 31 回受賞者　国立遺伝学研究所　宮城島　進也氏
　タイトル：微細藻類の研究系
　　－細胞内共生による生命進化の研究と社会実装―
・記念講演　国立遺伝学研究所長　花岡　文雄氏
　タイトル：国立遺伝学研究所の歩み
・常務理事　鈴木　榮一郎
　タイトル：木原記念学術賞のご案内
◇参加者：133 名

２　知識普及啓発事業

（１）木原記念こども科学賞【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

身近な動物や植物に親しむことで、次代を担うこどもたちの科学の芽を育むことを目的として「第 31 回木原記念こども科学賞」を実施しました。

神奈川県内の小・中学生を対象として､生きものに関する観察、調査、実験等の作品を募集した結果、264 作品（42 校・45 個人）の応募をいただき、主に小中学校の教員で構成される選考委員会による選考を経て、22 作品の入選が決定し表彰式を開催しました。昨年度に引き続き今年度も地域の企業、バイオ関連企業、研究者等からご寄附をいただき、本事業の運営（作品集の印刷、会場費等）に活用させていただきました。

表彰式は横浜市庁舎のアトリウムを会場とし、光あふれるフロアで受賞作品の展示も行いました。また、令和元年度以来４年ぶりとなる「小さい実験」を実施し、「味覚のサイエンス実験」に一般公募の参加者も含め、神奈川県内の小・中学生および保護者 34 名の参加があり、講師の先生から「基本味」や「うま味」のメカニズムについて楽しく学ぶことができました。

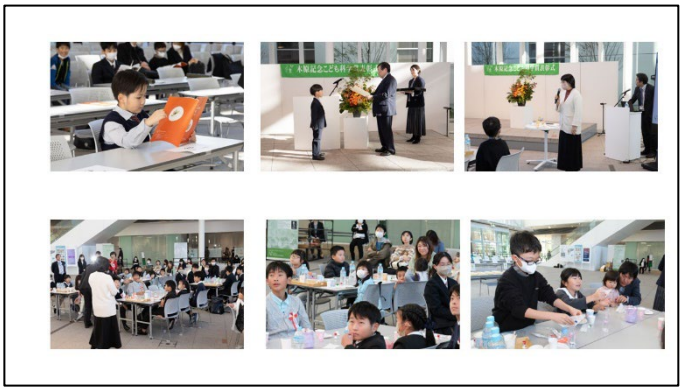
受賞作品や講評をまとめた作品集を財団のホームページに掲載しています。

《募集概要》
◇期間：令和５年７月１日（土）～９月 30 日（土）
◇後援：〔教育委員会〕神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横浜市教育委員会
〔研究機関〕横浜市立大学木原生物学研究所、海洋研究開発機構
〔企業〕株式会社神奈川新聞社、株式会社横浜銀行、横浜信用金庫
◇寄附：横浜市内企業等 6 社、個人 12 名
◇募集先：神奈川県内　全小・中学校
◇応募数：264 作品（小学校低学年 88、小学校高学年 75、中学校 101）

《選考結果》

	最優秀賞	優秀賞	努力賞	神奈川新聞社賞
小学校低学年の部	1	2	3	1
小学校高学年の部	1	2	3	1
中学校の部	1	3	3	1

《表彰式・記念講演会概要》
◇開催日
令和５年 12 月３日（日）
◇会場
横浜市役所 1F アトリウム
◇次第
表彰式
13 時 00 分～14 時 15 分
小さい実験講演会
14 時 15 分～15 時 30 分



３　情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信しました。

Ⅱ 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

（事業費支出　51 百万円）

１　共同研究開発事業等

（１）共同研究開発の創出・推進【区分：相談・助言】

神奈川県域に立地するライフサイエンス分野の企業及び大学等研究機関が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援しました。特に、研究助成した大学の研究テーマを企業に橋渡し、共同研究を創出しました。

（２）Go-tech事業【区分：技術開発・研究開発】

昨年に引き続き、ものづくり基盤技術を活用した高度なサービスに関する研究開発や試作品開発等の取り組みを支援し、中小企業のものづくり基盤技術及びサービスの高度化を通じて、イノベーションによる我が国製造業の国際競争力の強化を図ることを目的とする補助金を活用し、中小企業者が研究機関と連携して行う、事業化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発及び販路開拓への取り組みを支援しました。

当該研究は、平成28～30年度に実施したサポイン事業（関東経済産業局 委託事業）により事業化している株式会社レナテックのメタロ・バランス検査（がんリスクスクリーニング検査）に用いた測定技術を応用し、血漿の金属元素測定による認知症及び血液がんリスク診断技術の開発を目的としています。

今年度が研究の最終年度でしたが、全国5拠点という広範囲で50～85歳の一般ボランティア2,982名から検体を収集し、そのうち1,608名についてMMSE検査（ミニメンタルステート検査：認知機能検査）を実施するなどにより、確度の高い認知症についてのリスク解析アルゴリズムを開発することができ、認知症の前の軽度認知障害のプレスクリーニングとして今後の利用が期待されます。また、更なる研究が必要ですが、認知機能向上のためのキーと成り得る元素を同定することができました。これらは、今後の長寿社会において「いかにして健康寿命を延ばせるか」という目的への大きな一歩と言えます。

財団は事業管理機関として、補助金の用途や証憑のまとめ方等を指導するなど、当該研究を支援しました。

事業名称：中小企業経営支援等対策費補助金（成長型中小企業等研究開発支援事業）
研究テーマ：血漿の金属元素測定による認知症及び血液がんリスク診断技術の開発

補助元：経済産業省関東経済産業局

補助金額：38,688,342円（内、間接補助金額36,868,342円）

研究機関：株式会社レナテック、大阪精神医療センター、大阪国際がんセンター

（３）大学・研究機関の研究・産学連携支援【区分：相談・助言】

横浜市立大学の産学連携URA業務を受託し、週1日常駐して産学連携業務の支援を行いました。通年で延べ20件のプロジェクト支援を行った他、市大が採択されているCOI-NEXT事業や各種イベント等に関するアドバイスを行いました。

横浜市内にある大学研究者の競争的資金申請書の添削支援を行いました。

２　研究開発等助成事業

（１）LIP.横浜トライアル助成事業【区分：助成（応募型）】

中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成しました。また、助成対象となる企業等の探索から申請書作成支援、助成金執行管理に係る支援を行いました。

【名　称】　LIP.横浜トライアル助成事業

【助成率】　10/10以内

【助成限度額】　中小企業200万円　大学等100万円

【実施結果】　採択件数 10 件（中小企業 6 件、大学等 4 件）

採択企業・団体名	事業計画の名称
国立大学法人 東京工業大学	可視化Ｉ型コラーゲンによる、コラーゲン分泌制御関連製品の機能評価および新規成分スクリーニング系のプラットフォーム構築
学校法人慶應義塾	2 次元正弦波微細構造を有するフレキシブル導電体の開発と医用デバイスへの展開
公立大学法人 横浜市立大学	小型ダイレクトドライブモーターを応用した、ロボット支援手術における新規触覚伝達ロボット鉗子、および多軸ロボット操

	作アームの動態制御を利用した手術数値化に基づくロボット手術シミュレーターの革新的同時開発
公立大学法人 横浜市立大学	重症心身障碍児の育ちを支える「コミュニケーション支援 AI」の開発及び持続的な運用法の確立
ゲルサイエンス 合同会社	ハイドロゲルを用いた鏡視下手術のための手技練習用粘膜モデルの開発
株式会社 Elixir Pharma	世界初の骨格筋治療薬を目指す、SV ペプチドの研究・開発
ニイガタ株式会社	歩行リハビリテーションシステムの開発
株式会社 OUI （OUI Inc.）	スマホアタッチメント型眼科医療機器による眼科オンライン相談システムの実証
株式会社 ユーグレナ	尿中の葉酸を簡便に測定し、疾患予防に活用する技術の開発
LOOVIC 株式会社	空間認知が苦手な人の為の歩行トレーニングアプリの開発

Ⅲ　生命科学の応用による産業活性化の支援事業

（事業費支出　40 百万円）

１　事業化支援

（１）横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）の推進

【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

「LIP.横浜」補助事業の一環として、横浜市内のライフサイエンス系企業・研究機関に対する以下のような支援を通じ、研究開発を推進しました。

ア　LIP. YOKOHAMA BIBLIO の運営

研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネットワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す、物理的な「支援の場」（LIP. YOKOHAMA BIBLIO）を運営しました。セミナーはオンラインで1回、対面で4回開催し、延べ100人の参加者を集めました。

◇訪問人数：延べ 12 名
◇相談件数：延べ 9 件
◇セミナー開催：5 回
◇セミナー参加者（延べ）：100 名（オンライン 16 名、現地参加 84 名）
●セミナータイトル※抜粋
・「2023 年度 LIP.横浜トライアル助成金説明会」
・「ライフサイエンスビジネスで未来を創る Before the 1st Step セミナー in 日本橋」（横浜 INNNOVATION DAY との共同開催）
「LIP.YOKOHAMA BIBLIO セミナー ライフサイエンスビジネスで未来を創る Bio/Medical 分野でビジネスをするための Step ＆ Step」
・On The 1st Step
・On The 2nd Step
・On The 3rd Step

イ　オープンイノベーションカンファレンス

ライフサイエンスやヘルスケア分野での新規事業を検討する異分野の大企業と、市内中小・ベンチャー企業等とのマッチング・個別商談会を開催しました。

◇タイトル：オープンイノベーションカンファレンス 2024
“クロスイノベーション Breaking Barriers　異なる領域の融合が導く新しい世界”
マッチング数：114 件
◇開催日時：令和６年２月７日～２月 21 日）
◇参 加 者：大企業５社、市内大学６機関、中小・ベンチャー企業 12 社
◇来場者数：237 名
◇マッチング件数：114 件

ウ　LIP.横浜トライアル助成事業（再掲）

市内企業や大学等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成する「LIP.横浜トライアル助成事業」について募集・選定を行い、計9件（採択された10件のうち1件辞退）について交付を決定しました。

「2次元正弦波微細構造を有するフレキシブル導電体の開発と医用デバイスへの展開」については助成金事業の成果が論文投稿をされた。また、「尿中の葉酸を簡便に測定し、疾患予防に活用する技術の開発」については既存のサービスに組み入れられ測定サービスが開始されることとなったなど、市内中小企業等や大学による開発の成果につながっています。

◇助成金名称：LIP.横浜トライアル助成事業
◇対象者
　横浜市内に立地する中小企業、大学等研究機関、病院など
◇対象事業
　健康・医療分野の基礎研究成果や臨床ニーズ等の実用化に向けた産学連携事業の推進につながる事業
　・研究成果やアイデアなどを具体化する部品・製品・ソフトウェアの開発や試作品の開発
　・研究成果やアイデアに基づく仮説を検証し、次の研究ステップに進むために必要となるデータ等の取得
◇助成率　　対象経費の 10/10 以内
◇助成限度額　中小企業 200 万円/件　大学等 100 万円/件
◇助成対象期間　交付決定日から令和６年２月末日

（２）横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）デジタルヘルスケア事業の推進【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）」において、市内中小企業等のヘルスケアに関連するビジネス機会の創出及び研究開発の実用化に向け、産業動向や学術的な情報を収集、提供することにより、ヘルスケア関連領域への新規参入やビジネスアイデアの創出を促し、事業化を支援するための事業を実施しました。

ア　ヘルスケア関連分野でビジネスを行う企業とCVCのマッチングイベントの開催

事業促進のための資金調達や事業連携を目的として主にCVCや大手企業と市内デジタルヘルスケアスタートアップ企業のマッチングを目的としたイベント「Yokohama Digital Health Spotlight 2024」を開催しました。

◇イベント名称：「Yokohama Digital Health Spotlight 2024」
◇開催日時：令和６年２月６日
◇参加人数：92 名
◇提案数：15 件
◇マッチング数：2 件

イ　専門家コミッティによる製品アイデア、ビジネスモデルに対する評価助言

デジタルヘルスケア領域で事業を展開する市内企業へ「製品・サービスの上市」のための助言を行う事ができる人材を専門家コミッティとして組織しました。また、専門家コミッティへ市内企業が製品アイデア、ビジネスモデルに対する評価助言を求める場を毎月１回開催しました。

開催回数：８回

開催日時：毎月最終木曜日

相談企業数：６社

（株式会社日立製作所、株式会社ニデック、株式会社リキッドデザインシステムズ、株式会社ユーミリア、Narrative 合同会社、株式会社ＡＬＩＴＡ）

ウ　セミナーの開催

以下、3 回のセミナーを開催しました。

【セミナー①】

「成功するために必要なパートナーシップ！ 企業アライアンスの実践的戦略」

開催日時：令和５年６月 12 日

参加人数：104 名

【セミナー②】

「成功する資金調達～資金を確保し、ビジネスを成長させる方法～」

開催日時：令和５年８月 23 日

参加人数：67 名

【セミナー③】

「デジタルで加速するヘルスケア産業のいま」

開催日時：令和６年１月 31 日

参加人数：150 名

エ　アンケートによる顧客ニーズの収集

DeNA ライフサイエンスと協定を締結し、同社の実施するヘルスケア領域の顧客ニーズ収集サービス MyCodeResearch のデジタルヘルスケア拠点特別パッケージを構築しました。また、このパッケージの利用者を公募にて募集したところ、応募者が 0 件であったため、令和５年度はパッケージ構築のみとしました。

利用者負担費用：1 件当たり 22 万円（税込））

公募期間：令和５年７月 10 日～10 月 31 日

応募数　：0 件

オ　デジタルヘルスケア企業の事業計画立案のための市場調査レポートの作成

デジタルヘルスケア領域で今後重要になってくると考えられる以下の 3 テーマについて、興味のある企業と共に調査を実施するマルチクライアント型の調査を実施、参加企業を公募にて募集しました。

（利用者負担費用：1 件当たり 11 万円（税込））

【テーマ】クリニック向け ICT サービス、ブレイン・メンタルヘルスケア

PHR 関連サービス

公募期間：８月 22 日～10 月 31 日

応募数　：1 件

応募企業：京三製作所（PHR 関連サービス）

カ　実証実験に係る調査・データ等の購入

デジタルヘルスケア領域への市内中小企業の参入を支援することを目的として、市内企業が利用できる電子書籍検索サービス「メディカルオンライン」を導入しました。

デジタルヘルスケア領域のベンチャー中小企業の動向を把握し、既に実施されている実証実験等のスキームを調査するため「2023年版ヘルスケアベンチャーの現状と展望」を購入しました。

（３）個別支援等【区分：相談・助言】

中小企業・スタートアップ等への個別訪問・ヒアリング等により、生命科学分野で事業を行う際の課題に応じた助言、コーディネータ等の専門家相談対応、外部機関とのマッチング、必要に応じたプロジェクト組成と伴走、助成金獲得等の個別支援を実施しました。

マッチングを行った140件中の10件とトライアル助成金の助成対象となった9件の計19件についてプロジェクト創出を支援し、大学の研究促進や産業化支援、ベンチャー企業の事業促進等の成果につなげました。

◇個別相談支援件数：78 件　　◇マッチング件数：140 件
◇プロジェクト件数：19 件

２　ネットワーク促進、活用事業（マッチング）【区分：その他】

（１）バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク内の企業、全国のアカデミア、バイオ産業支援機関などの連携体であるBVAの中核機関及び事務局として、メンバー同士の交流の場（定例会）や外部講師を招いた勉強の場（勉強会）を提供するとともに、各種相談や公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなど事業や研究開発の発展につながる支援を行いました。

◇会員数（令和６年３月末）：108 社・機関（対前年度比 19 増）
◇主な取組：各種相談や公的資金に関する情報提供、企業間連携のコーディネーションなど事業発展につながる支援や定例会・勉強会の開催（3 回）、セミナー開催(8 回)、マッチングカンファレンス（2 回）、研究会（8 回）など

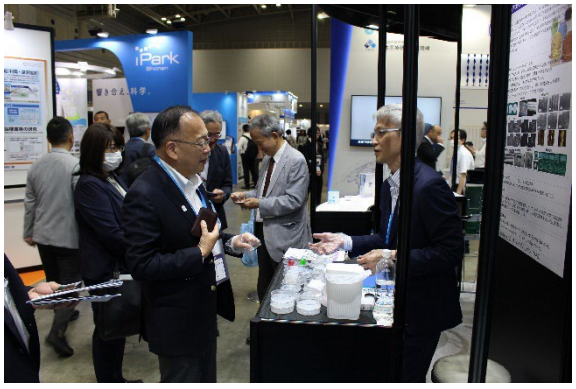
３　出展支援・広報【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言、講座・セミナー・育成】

（１）BioJapan　2023　出展支援

域内に立地する中小企業の出展や販路拡大等を支援するため、横浜市、川崎市と連携し、横浜市内企業等で構成するパビリオンを設け、研究開発用ツールや受託サービスに関する技術の情報発信や商談等を支援しました。

コロナ禍も収束し、25周年開催となった同展示会は、過去最大規模となり、パビリオンへの集客向上や販促資料を広く配布するなど、工夫を凝らしたパビリオン運営を行い、例年と同程度数の企業の参加を支援しました。

◇開催日時：令和５年 10 月 11 日（水）～13 日（金）
◇会　　場：パシフィコ横浜
◇来場者数：16,138 名（主催者発表）
◇パビリオン出展：29 社・機関（うち横浜市内企業・団体 14）



４　クラスター連携事業

（１）クラスター連携【区分：その他】

ライフサイエンス資源の発掘や育成に地域で取り組む公益財団法人等の支援機関に声かけを行い、各地域の支援内容・成功事例等の情報共有や、地域を超えた共同研究・事業連携等の創出に向けた意見交換などを行う場を設けました。

◇開催：2 回
◇日時：第１回　令和５年６月 14 日（水）、第２回　令和６年１月 23 日（火）
◇場所：第１、２回とも　オンライン
◇参加団体（15 団体、50 音順）：
アグリオープンイノベーション機構、沖縄科学技術振興センター、
かずさＤＮＡ研究所、神奈川産業振興センター、川崎市産業振興財団、
木原記念横浜生命科学振興財団、久留米リサーチ・パーク、東北ライフサイエンス・インスツルメンツ・クラスター、とっとりバイオフロンティア、名古屋産業科学研究所 中部ＴＬＯ、
ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター、
北海道科学技術総合振興センター ノーステック財団、
マリンオープンイノベーション機構、やまなし産業支援機構、横浜企業経営支援財団
計 15 機関

Ⅳ　生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営

１　横浜バイオ産業センター（YBIC）事業　【区分：施設の貸与】

（事業費支出　134百万円）

バイオ産業集積の拠点として、横浜バイオ産業センター（YBIC）の貸室貸与により、バイオ関連企業や研究機関の研究開発を支援しました。令和５年度末現在で入居率100%を維持しています。

運営にあたっては、防災訓練等を実施し､火災時の全館避難の訓練を行うなど良好な研究環境維持に努めました。

YBICは建設から10年以上が経過しているため、経年劣化に対応する修繕改修等を計画的に実施しました。

◇安全管理協議会：　令和５年 10 月５日（木）開催
◇防災訓練　　：　令和５年 10 月 19 日（木）実施
◇主な設備補修　：経年劣化による電話設備更新工事、会議室等共用部５室の室外機整備、植栽場所の潅水装置交換工事の実施

YBIC 外観

Ⅴ　理事会・評議員会・監査

１　理事会

理事会は、Web および決議の省略により開催しました。

（１）第１回理事会 令和４年度決算他 （令５年６月８日 Web 開催）

（２）第２回理事会 代表理事の選任 （令和５年６月 26 日 Web 開催）

（３）第３回理事会　学術賞選考委員の選任（決議の省略 令和５年 11 月 10 日提案 15 日決議）

（４）第４回理事会 令和６年度予算他 （令和６年３月 21 日 Web 開催）

（５）第５回理事会　評議員会の開催（決議の省略 令和６年３月 26 日提案 27 日決議）

２　評議員会

評議員会は Web および決議の省略により開催しました。

（１） 第１回評議員会　令和４年度決算他 （令和５年６月 26 日 Web 開催）

（２） 第２回評議員会　評議員、理事の選任 （決議の省略 令和６年３月 28 日提案 29 日決議）

３　監査

令和４年度決算について、令和５年５月 24 日、５月 29 日、５月 31 日に、監事により往査が実施され、令和５年６月８日の理事会で、事業報告書並びに財務諸表は適正であると認めること、理事の職務執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失がないと認める旨、監査報告がありました。

Ⅵ　事務局

原則、週１回在宅勤務を実施するとともに、職員各々のライフワークバランスの推進に努めました。

さらに、全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施し、情報セキュリティ対策を推進しました。

また、理事長の諮問委員会として財団が果たすべき役割の検討を目的とした「将来構想検討委員会」を令和５年度も開催し、委員会での意見を参考に財団の中期経営計画を策定しました。